

令和3年度 第3回学校運営協議会議事録

今回は新型コロナウイルスの感染拡大による影響を勘案し、会議の開催を断念することになりました。代替措置として、各学年、分掌等の進捗状況を学校運営協議会委員の方々に送付し、それについてメールあるいはFAXでいただいた意見をまとめ、学校運営協議会委員の確認、了承を得たものを、「令和3年度 第3回運営協議会議事録」とさせていただきます。

[委員] 田中満公子 委員、今西邦夫 委員、井上博史 委員、坂部弘重 委員、
渡邊雅世 委員、西端律子 委員

(委員)

2年間のコロナ禍のなか、先生方、先生の皆さんの頑張りに敬意を表します。今の世の中で改めて三丘生に求められることは、探求心、正義感、共生感が大切かと思えます。継続すること、打開する力も必要ですね。高める(競う)心、称える心、思いやる心を持って成長してほしいと思えます。

SDGs、ダイバーシティ、働き方改革、様々な変化に対応できる人材の育成が必要です。

(学校)

委員ご指摘のとおりだと考えております。混沌とした世界の中で真のリーダーシップを発揮できる人材を育成するためには、数字で測ることができる学力だけでは全く不十分です。引き続き、三丘スピリットをベースとした教育活動の充実につとめてまいります。

(委員)

①令和3年度の学校評価について、△であった項目について、令和4年度の評価指標の根拠の説明が必要だと思えます。また、△の項目を○以上にするためにどのような策を考えているのかについても説明が必要と思えます。対面の会議では説明があったと思えますが。

(学校)

「令和3年度学校評価」において目標が達成できなかった項目は以下の7項目です。

①三丘セミナーの講座数②研究室訪問・見学等の実施回数③国際交流活動に関する肯定的評価④遅刻件数⑤教育活動やWEBページ発信の充実に関する保護者の否定的意見⑥教育産業等授業研修や他校研修への参加⑦学習支援のためのオンライン活用研修。

このうち①②③⑥については、コロナ禍の影響を直接的に受けたものであり、その他は、コロナ禍の影響を間接的に受けたものと考えています。

令和4年度においては何れの指標も目標を達成できるよう計画しているところであり、具体的な対策については、7月に開催を予定している令和4年度第1回学校運営協議会でご説明をさせていただきます。

たいと考えています。

②校長先生ならびに先生方のご尽力により、コロナウイルス感染の拡大が防がれ、学校行事もほぼ実施されたことは喜ばしい限りです。生徒さんたちもコロナ禍でも三国丘高校生としての活動ができていることに満足しているのではないかと思います。

(学校)

新型コロナウイルス感染症拡大による学校教育活動への制限が行われる中、主な学校行事が予定どおり実施できたことは大きな意義があると考えています。1つには、生徒のメンタル面への影響です。何かと我慢を強いられる状況の中で、生徒会を中心に生徒が自ら工夫し学校行事を企画運営した経験は得難いものになったと考えます。そして、もう1つは、保護者や地域、同窓会等の理解と協力です。心から感謝しております。

③各学年ともいろいろな校内・校外活動に対して充実した学校生活を送っている様子が目に浮かびます。遅刻については、以前に比べると大幅に減少しているように思います。忠告委員なる委員ができ、生徒同士で注意し合うシステムのようなのですが、遅刻の減少には効果があるように見受けます。ただ、遅刻の減少には学校だけの努力では限界があるようにも思います。遅刻の多い生徒には、保護者にも連絡して家庭でも対策を取っていただくことが必要かと思えます。すでにされているとは思いますが、通知表に遅刻回数を記載して、三者面談時に話合うことも有効かもしれません。面接のある入試(推薦入試、医学部の入試など)では、欠席回数が多いと理由が訊かれることもあるそうなので、遅刻が原因となる弊害を実例で紹介して注意を促すのも一つかと思えます。

(学校)

総件数は2139件ですが、事情を考慮すべき要配慮遅刻を除けば、1087件となります。このコロナ禍の状況でやむを得ずと判断できるものも多く、他校の教員経験からも推薦入試で問題となるレベルにあるとは考えていません。家庭の責任(協力)を認知していただくことは当然と考え、担任が家庭との連絡を密にとっています。クラスにより遅刻件数は大きく差がある事実を踏まえ、本人の受ける実害を訴えるより、遅刻して教室に入る生徒が出るたび、授業が止まるなどクラスメイトへの影響を想像して行動改善を促す指導を行っています。

④受験(進路)指導につきましては、学年ごとに計画的にきめ細かく指導されていることがよくわかりました。3年生の進路希望調査(10月)の結果が記されていますが、4月のときとはどのような変化があったのかも知りたいです。東大と京大の見学ツアーや講演会など積極的に実施しているにもかかわらず希望者が少ないのは、少し寂しく思います。

(学校)

→ 3 年次 4 月

東京大学	0
京都大学	32
大阪大学	126
神戸大学	49
大阪公立大学	63
大阪教育大学	3
その他の国公立大学	33
私立大学	6

1 1 月

東京大学	0
京都大学	29
大阪大学	111
神戸大学	51
大阪公立大学	67
大阪教育大学	3
その他の国公立大学	38
私立大学	9

入学段階から京大志望者は 30 数名でした。学年途中で京大志望者が減ったとは考えにくいです。ここ数年、京大合格者は北野高校が飛びぬけて増加しています。逆に大手前高校の京大合格者は激減しています。近年文理学科に進学するためには、某塾の指導が大きく影響する時代となり、京大志望者は北野高校へという流れが定着している（あくまで推測です）気がします。

⑤科学系コンテストへの参加者が増えたのは非常に良かったと思います。大学で学ぶ内容も含んでいる（しかし海外では高校で学ぶのです）ので、高校の教科書ではあいまいにしか書かれていなかったことが「こういうことだったのか」と、まさに「目から鱗」のような経験もすることと思います。また、世界標準を知る意味でも良い経験だと思いますので、チャレンジャーがさらに増えることを期待しています。

(学校)

今年度は過去最大の人数が科学系コンテストに参加し、高校の内容を超えたおもしろい問題に多くの生徒が触れることができました。全国大会も近年はコンスタントに出場するようになっていきます。これらの結果は、SSH 事業が多くの教員に浸透し、科学系コンテストに意識をもって指導している成果かと思っています。

⑥SGH について、SSH と同様、順調に進んでいると思います。今年度も入賞等の成果も見られ、生徒の皆さんのがんばりに加え、先生方のサポートにも感心いたします。

(学校)

ありがとうございます。令和 4 年より若手の先生に SGH 主任を引き継ぎ、新しい風を入れつつ、より一層充実した探究活動になるよう力を注いでいきたいと思っております。

(委員)

①SSH 令和 3 年度の活動で、コロナ禍でも過去最高の参加者があったこと、喜ばしいです。オンラインで効果的にできることのひとつなのかもしれません。とはいえ、「体感」大事ですよ。はやく生徒の皆さんが体で感じられるような世界になってほしいです

(学校)

今年度もほとんどの体感学習が中止となりました。唯一、校内で開催した探究活動のプログラムでは、多くの1年生が参加し1日かけて熱心に探究活動に取り組んでいました。その一生懸命な姿から改めて「体感」することの必要性を感じました。来年度は体感校外学習など中止になっていたプログラムを一つでも多く再開していきたいと思っています。

②SGH の活動においても、日本代表とは頑張られましたね。是非、いろいろな形で成果を情報発信していただければと思います。

(学校)

HP 更新が遅れており申し訳ございません。成果の発信を心がけていきます。

(委員)

①教育活動について

令和 3 年度もコロナに振り回される状況は変わりがなかったですが、そのような中でも、修学旅行や体育祭、文化祭、校外学習など例年通りとはいかなくても行っていただけたことは非常によかったと思います。先生方の調整ご準備のおかげです。本当にありがとうございました。

また、Google Classroom や、一人1台の端末の利用などで、生徒と学校との連絡などは密にできていると感じております。保護者へのさくら連絡網を使った文書配布もおおむね好評であると思います。こういったシステムの利用は先生方も導入当初はご負担が大きいと思いますが、今後も重要性は増してくると思いますので、やはりそちらに軸足を移していただき、使いこなしていただければと思います。

(学校)

学校教育自己診断（保護者）において「保護者から意見を聴く機会を多く持っている」の否定的回答率は21.6%と高く、目標の15%に達していません。このことは、学校経営計画上の課題であり、令和4年度における達成が求められています。意見を聴くためには情報の共有が不可欠であることから、今後とも、Google Classroom やさくら連絡網を使った取組を充実させたいと考えています。

②入試について

共通テストは全員無事に受験できたとのこと。これもひとえにご指導の賜物かと思います。また、例年より難化した試験でも、三国丘の生徒たちは結果を残し、また推薦入学等でも非常に合格率が高いと聞いております。文武両道、何事にもあきらめない姿勢が実を結んだ結果だと思えます。

(学校)

大阪大学、大阪公立大学において、全国1位の合格者数を出しました。推薦入試でも80%近くの合格率となっています。推薦入試では、三丘パスポートとして3年間の探究活動をまとめたものを使い自己PR、実績を大学に提出することができたのが勝因の一つです。軟化した共通テストに対して、共通テスト翌日に「進路新聞(進路通信)」を発行し、昨年の共通テスト、一昨年のセンター試験に比べて、74期生は高い得点率であることを数値で説明しました。これが第一志望校の出願につながり、2次試験も突破してくれたように感じます。

高校生活で最も印象に残っていることは「クラブ活動」と答える生徒がほとんどです。文武両道「勉強とクラブ活動 どちらも頑張る」と一般的にいわれますが「クラブ活動があるから勉強も頑張れる、双方どちらを欠いてもうまくいかない」というのが、三国丘生の実態です。自主活動と勉強の相互作用によって高いモチベーションを維持できた3年間と考えます。

③海外研修・国際交流等について

令和4年度もまだ先が見えない状況で、本校の特色である研修プログラムが予定通り実行できるのか非常に不透明ですが、昨年実施されたオンラインによる特別講義など、代替案をご用意いただき、生徒が積極的に参加していることは非常によかったですと思えます。

今年もまた現地に行くことができない場合はぜひ継続していただければと思えます。

(学校)

令和4年度も海外研修は難しいところですが、国内で合宿してリーハイ大学のオンライン講義を受ける案を考えております。海外渡航のめどが立ち次第、すぐにでも再開したいと考えております。

④SSH事業について

次期指定の申請をされているということで、ぜひともSSH指定校は続けていただきたいと思えますのでよろしくお願いたします。文理学科の特色を生かし、理系人材を育むという面では、非常に有効かと思えます。

(学校)

第3期は探究活動を軸に、理系の様々なプログラムに加えて人材育成をテーマに次期申請を行い、引き続きSSHの指定を受けることができました。人との協働というのは文理問わず社会に出て必ず必要な

力なので、その点を伸ばすことのできるプログラム開発をしていきたいと思っています。

⑤その他生活習慣の確立など

3年生の学年文書を読んでいると特に遅刻や欠席が多いのだなと感じました。コロナ禍において、やはり生徒の孤独感、孤立感というのは非常に大きいのかなと思います。また入試や試験の終わった生徒のモチベーション維持なども難しかったのかと思います。

今の子供たちは、自分の考えを小さいころから尊重される育ち方をしてきたので(それは昔のように家長=親がある程度生き方や考え方を決めて従わせるというような教育方法ではなく、自分で考え行動することを認めるような考え方が浸透した結果ではありますが)自分の考え=自分のわがままになっている部分に気が付かないというか、親や先生に否定されると、すぐにすねたり人格否定のように受けとってしまうようなところがあるのではないのでしょうか。

もちろん自主性は非常に大事なことであり、特にもう高校生ですので自分の発言や行動に責任を持つべき年代ではありますが、「わがまま」はやはり「わがまま」であるということを指導いただくことも必要であると感じています。(もちろん親も含めてですが)

心のケアの問題は特にコロナが収束するまでは、まだまだ増えてくることが予想されますので、引き続きスクールカウンセラーの利用や、担任の先生によるケアなど、ご負担も多いと思いますが生徒たちに力添えをいただければと思います。

(学校)

コロナ禍が終わった後も生徒のメンタルへの影響は色濃く残ると言われています。スクールカウンセラーの活用は勿論のこと、教員がカウンセリングマインドを持って生徒と接することが重要だと考えます。そのうえで毅然とした姿勢で、保護者と力を合わせて生徒を育成するという視点を大事にしていきたいと思っています。今後とも、保護者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

⑥最後に

先日素晴らしい卒業証書授与式を挙行いただき、3年生は立派に三国丘高校を卒業いたしました。本当にありがとうございました。三国丘高校で3年間学べたこと、親として本当に素晴らしい時間を与えてくださったと思っています。良き伝統を守りつつ、更なるご発展を心より祈っております。ありがとうございました。

(学校)

ありがとうございます。卒業生が母校への誇りを胸に、社会で活躍してくれることを祈念しています。

(委員)

1 新型コロナウイルス感染症関連の状況と教育活動

2 活動報告

感染防止と学びの保証の両立に向けて、様々な戦略をたてながら学校行事や進路の取組み、SGH や SGH の活動を展開されてきたことに感服します。とりわけ教職員の皆さまのご尽力に敬意を表します。きっと生徒たちにそのことを受け止め、理解し、一生忘れないと推測します。

一方で、1, 2 年生は、入学当初よりマスク姿がニュー・ノーマルとなり、表情が以前よりは確認できない日々が続いています。「74 期 学年総括」においても、「3 年間で不登校に類する生徒が 25 名を超えた」とありあります。74 期生は、1 年次の 3 学期からコロナ禍に突入し、卒業式は第6波の真ただ中で迎えました。担当団の長期にわたる粘り強い支援には、心より敬意を表します。しかしながら「生徒理解」という観点から、他にも学校全体で話合われていることがありましたら、可能な範囲でご教示ください。

(学校)

コロナの影響を受け不登校件数が増加している傾向は、本校のみならず全国的な状況かと思えます。令和 4 年度においては、引き続き、スクールカウンセラーと連携した取組を充実させるため、面談日数を増回することとしました。年度当初の状況をみながら、このほかにも臨機に必要な対策を講じてまいりたいと思えます。

3と4 「学校経営計画及び学校評価」について

1) 授業

(資料)【学校教育自己診断の結果と分析】より

■生徒

B 否定的意見（「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計が 25%以上）

	肯定的意見					否定的意見				
	H29	H30	R1	R2	R3	H29	H30	R1	R2	R3
9 大学受験にあまりとらわれない学習活動にも力を入れてほしい。	49.1%	42.9%	49.4%	49.0%	50.7%	41.8%	43.2%	39.3%	38.3%	36.4%
20 土曜授業は学習効果があると思う。(1・2年) 又は、あったと思う。(3年)	36.8%	35.8%	43.8%	52.2%	52.3%	53.7%	53.7%	46.8%	36.0%	37.0%

【分析】

上記の項目は、昨年度も否定的意見が 25%以上あり、

	肯定	否定
6 大学受験に必要な科目にもっと重点を置いた授業をするべきだ。	44.5%	30.2%
7 大学受験にあまりとらわれない学習活動にも力を入れてほしい。	49.0%	34.2%
22 授業参観や学校行事に参加したことがある。	37.9%	43.4%

【分析】

6, 7 に関しては、毎年、肯定的意見と否定的意見がどちらも高く、大学受験に必要な科目は大切であるが、同時に受験にとらわれず、広く教養も身につけることも大切であるという保護者の意見が反映されている。本校は、学校設定科目 Creative Solutions における探究活動 (SSH、SGH 含む)、授業以外では部活動、生徒会活動など様々な活動が行われており、進路実現のための勉強とその他の学びのバランスをうまくとりながら学校生活を送ることができるようなカリキュラム体制を組み、ニーズに応じている。また、22 に関してはここ数年続く新型コロナウイルス感染症拡大によって保護者が来校し、学校生活の様子を知る様々な機会が制限されているせいであると思われる。

■保護者

■教員

(データなし)

上記の結果のデータを以下のように整理してみました。

<表 A>

大学受験に必要な科目にもっと 【生徒】○66.9 ✕21.0 【保護者】○44.5 ✕30.2*
大学受験にとらわれない学習にも【生徒】○50.7 ✕36.4 【保護者】○49.0 ✕34.2*

(*HPに掲載されている表では「30.3」「34.3」となっています。)

(上記の資料をもとにした意見と質問です)「学校教育自己診断」については、学校の分析の通りだと思いません。が、若干感想を述べます。【生徒】は、両項目とも○が50%~67%であることから、2人に1人はもっと深く幅広く学びたいと考えているとも読み取れます(表A参照)。観点を加えて、「…4年前と比較すると、『授業に満足している』生徒が増え、『受験勉強にもっと重点を置いてほしい』という生徒が減ってきていることから、生徒の要望に沿った授業が行われている…」(上記資料参照)と分析に異存はありませんが、両項目「大学受験に必要な科目にもっと」「大学受験にとらわれない学習にも」のクロス集計の結果に興味があります。(○66.9と✕36.4/○50.7と✕21.0表A)。

【保護者】は、○と✕の差が、15%程度であまり大きな差はみられないのが印象的です。経年変化に興味があります。保護者の傾向と教育改革の方向性(例えば、「学力も重要だが、それを活用するためのコミュニケーション力も大切だ」等)の関連はみられるのでしょうか。傾向や方向性はそれが指す範囲が広すぎ明確なエビデンスを示すのはむづかしいと思いますが、保護者の声など学校として、把握していることはあるのでしょうか。

全体的には、生徒や保護者のニーズと三国丘高校としての方針(学校経営計画)との、より一層つながりをつけていくことも求められているかと考えます。

(学校)

<生徒の回答について>

生徒のデータは学年しか属性がわかりませんので、今年度の質問項目8と9の回答について、学年別にどれくらいの割合でいるのか出してみました。

		総回答数	内訳		
			3年	2年	1年
8. 大学受験に必要な科目にもっと	肯定	469	42%	22%	36%
	否定	177	26%	33%	41%
9. 大学受験にとらわれない学習にも	肯定	427	31%	33%	36%
	否定	307	35%	35%	30%

※8、9ともに質問への全回答数は3年273名、2年282名、1年291名の合計846名。そのうち「わからない」と回答したものを除く生徒数で計算した。

8の質問に対しては、1、2年生は肯定派が少なく否定派が多い、3年生は逆に肯定派が多く否定派が少ないという結果になりました。3年生は受験が控えているので肯定派が多いと考えられます。1、2年生で否定派が多いことや探究活動をメインでおこなっている2年生で肯定派が特に少ないのは、大学受験に必要な学び以外にも生徒が目を向けていると考えられ嬉しく思いました。9の質問に関しては、あまり差はみられませんでした。

<保護者の回答について>

	肯定的意見					否定的意見				
	H29	H30	R1	R2	R3	H29	H30	R1	R2	R3
大学受験に必要な科目にもっと	50.5%	47.5%	49.9%	46.7%	44.0%	26.4%	29.8%	27.6%	31.5%	30.3%
大学受験にあまりとらわれない学習活動	40.0%	42.2%	44.6%	49.7%	49.0%	42.0%	40.6%	37.9%	36.5%	34.3%

経年変化を表にしてみました。あまり大きな変化はありませんが、全体的に、5年間で大学受験に必要な学びに対するニーズが減少し、受験以外の学びへのニーズが増加しています（否定派の意見は減少しています）。そういう意味では、本校保護者のニーズと教育改革の方向性は合致していると考えられます。

本校は探究活動に関する活動が海外・国内研修も含めて非常に多く、保護者のニーズには対応できているかと思います。また、令和4年度からは探究の授業に「協働力を育むカリキュラム」を本格的に盛り込みました。これからの時代は「他者と協働し、成果を出す」人材が求められると考えており、そのためのファーストステップとして高校生でも理解できるよう、「心理的安全性」「メタ認知」などをKeywordに探究学習の一つの柱にしています。これはSSHの第3期の目標にも据えており、全国的にも先進的な取組みとなっております。

2)遅刻件数

(△)となっています。が、校長先生の資料からは大幅に減少したとあります。これは大幅に減少したが、目標には及ばなかったという意味でしょうか？また忠告委員が出席点呼を行うことは有効で、生徒は頑張っており、いいことだと思います。が、一方で対処療法であることに変わりはありません。本来は生徒が主体的に遅刻をしないように自律するのが三丘生です。今後の展開を見据えて、R4の目標を達成するために、どのような原因療法をお考えなのでしょうか？(起立性障害などの原因は別として)

(学校)

昨年度の遅刻件数は2,380件、本年度は2,139件ですので、昨年度比は10%以上の減となっていますが、目標値の1,200件には遠く及ばなかったというのが現状です。本校でのこれまでの取組の経緯や本校生の気質に鑑み、委員ご指摘のとおり自律を促す指導が適切かと考えています。1学期始業式でも行いましたが、機会を捉え生徒指導主事からの講話などを通じて三丘生としての自覚を問う指導を重ねてまいりたいと考えています。

3)進路

生徒が強気で立ち向かう文化を学年と進路が連携して醸成しているようで、三国丘高校らしくて頼もしいです。

(学校)

協議会の資料でも示したように、学校生活全般を通じて「三国丘高校に帰属する意識」「互いに認め合い切磋琢磨する学年集団」「主体性と高い意識をもって物事に取り組む姿勢」の育成に努めました。修学旅

行や校外学習（遠足）、文化祭、音楽祭などではクラス委員を選出し、中心となってクラスをリードします。行事後には各委員をたたえる生徒たちの姿がありました。1年生からのこのような営みによって、生徒間、教員とも強い信頼関係が結ばれていきました。もっとも重要な進路指導については「正確な情報の提供」「数値に基づいた分析とアドバイス」に注意を払いました。生徒集団のまとまりと強い信頼関係が今年の進路実績につながったと思います。

5 SSH

アウトプットに力を入れた結果、インテイクが促進されたと読み取りました。SGH や SSH で生徒と教職員の皆さんがかいた汗が起爆剤となり、学校全体に波及している印象です。ご苦労様です。SSH は継続して指定になりことをお祈りしています。

（学校）

SGH の口頭発表の技術を SSH の生徒が参考にしたり、SSH の班分け方法を SGH が活用したりと、相互にいいところを共有して、それがさらに学校全体の探究活動などにも波及していくといった流れができています。

6 その他

「学年通信」「進路新聞」など拝読しました。コロナ禍の教育活動が具体的イメージできます。有難うございます。

（学校）

コロナ禍中の学校教育活動は、学校、生徒、保護者間の情報共有が肝要であると心得ています。「学年通信」「進路新聞」等につきましては、令和4年度も引き続き発行してまいります。